

# 銅合金、プレスで鍛造

## 三芳合金工業 1500ト機導入

【川越】三芳合金工業（埼玉県三芳町、萩野源次郎社長、049・258・3381）は、プレス機での鍛造に乗り出す。2020年春までに1500トプレス機を導入する。特殊銅合金の鍛造工程の生産性を大幅に引き上げるとともに、作業者の安全性向上や作業環境の改善につなげる。設置工事業を含む総投資額は非公表だが、数億円とみられる。

プレス機の導入は初めて。現在は最大2トのハンマー装置で鍛造している。4台あったプルダウン型プレスを

設置。プレスは幅・長さともに2倍で「これまでより大きな塊を鍛造できる。ずらしながらプレスすることで2倍以上の大物も可能」と（萩野社長）と



現在は複数の工員が手作業でハンマーによる鍛造を行っている。現在最大2トのハンマー装置で鍛造していたスペースに2柱式プルダウン型プレスを導入する。現在は最大2トのハンマー装置で鍛造している。4台あったプルダウン型プレスを

ハンマーによる鍛造は複数の工員が手作業で行っており、加工に時間がかかる。プレス機の導入で「大幅な時間の短縮になる。物にもよるが、生産性は倍以上になってもらわないと困る」（同）と稼働後に期待する。同時に作業は別室の操作室で行うため、輻射熱を避けられる。材料の飛散などの危険性もなく、環境改善につながる。さらに「ハンマーでは作業者が当て金を使って制御するが、プレスはすべて数値制御」（同）のため、品質向上につながるとみている。